

大阪府立成人病センター泌尿器科における 入院, 手術統計 (1984年1月-1988年12月)

大阪府立成人病センター泌尿器科 (部長・古武敏彦)

古武 敏彦, 前田 修, 中村麻瑳男, 宇佐美道之
清原 久和, 三木 恒治, 黒田 昌男, 木内 利明
細木 茂, 吉村 一宏, 友岡 義夫, 亀井 修
織田 英昭, 幸田 憲明, 鍋嶋 晋次, 金 昌弘
浜田 齊, 高 栄哲, 山師 定

CLINICAL STATISTICS ON INPATIENTS AND OPERATIONS AT THE DEPARTMENT OF UROLOGY, THE CENTER FOR ADULT DISEASES, OSAKA, 1984-1988

Toshihiko KOTAKE, Osamu MAEDA, Masao NAKAMURA,
Michiyuki USAMI, Hisakazu KIYOHARA, Tsuneharu MIKI,
Masao KURODA, Sigeru SAIKI, Kazuhiro YOSHIMURA,
Yoshio TOMOOKA, Osamu KAMEI, Hideaki ODA,
Noriaki KOUDA, Yoshitsugu NABESHIMA, Masahiro KIN,
Sai HAMADA, Eitetu KOU and Sadamu YAMASHI

From the Department of Urology, the Center for Adult Diseases, Osaka

Statistical observation on inpatients and operations at our department between January 1984 and December 1988 revealed the following results: 1) The total number of inpatients was 1962 (male: 1658, female: 304). The most frequent diseases were bladder cancer (30.0%), benign prostatic hypertrophy (19.2%), prostatic cancer (10.6%) and renal cancer (6.7%). 2) The total number of operations was 1699. The most frequent operations were transurethral resection (TUR) of bladder tumor (22.8%), TUR prostate (20.7%), TUR biopsy (6.5%) and total cystectomy (5.4%).
(Acta Urol. Jpn. 35: 2145-2148, 1989)

Key words: Clinical statistics, Inpatients, The center for adult diseases, Osaka

緒 言

大阪府立成人病センター泌尿器科では, 入院患者の半数以上を尿路性器悪性腫瘍で占め, その臨床診療および研究を大きな主題としている。今回われわれは1984年1月から1988年12月までの5年間の入院患者について臨床統計をおこなったのでその内容を報告する。

対象ならびに方法

1984年1月から1988年12月までの5年間に, 当科に入院した患者1,994人に対し, 年齢, 性, 疾患臓器と疾患の種類および手術件数, 臓器別の手術頻度と手術内

容, 手術術式別頻度を調査した。なお外来で行った小手術は手術症例ならびに手術件数に含めていない。

結果ならびに考察

入院患者統計

1) 入院患者数

5年間の入院患者総数は1,962人で, 年平均患者数は392人である。1978年から1983年までの6年間の年平均患者数414人に比べやや減少している¹⁾。これは化学療法を施行する症例が多いため, 1症例当りの平均在院日数が延長しているためと思われる (Table 1)。

2) 性別

全症例1,962人中, 男1,658人, 女304人で男女比は

Table 1. 症例数

	'84	'85	'86	'87	'88	計
入院患者数	400	384	382	383	413	1962
男：女	339:61	319:65	328:58	338:45	334:79	1658:304
手術症例数	291	287	294	271	302	1445
手術件数	344	345	339	325	346	1699

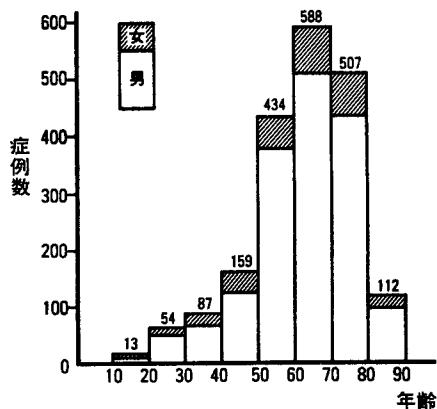


Fig. 1. 年齢分布

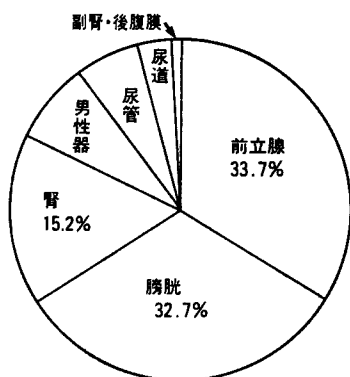


Fig. 2. 疾患臓器

5. 45 : 1である。

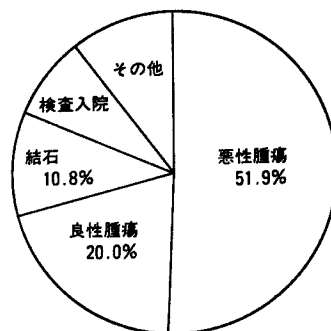
3) 年齢

年齢分布は、Fig. 1 に示す。20歳未満の症例が他施設に比べ非常に少ないのが特徴的である。20歳以後の分布は標準的であり、60歳代にピークを示している。

疾患統計

1) 疾患臓器

疾患を臓器別に分類すると前立腺が33.7%と最も多く、次いで膀胱32.7%、腎15.2%の順となっている (Fig. 2)。



'84~'88

1. 膀胱癌 589例 (30.0%)
2. 前立腺肥大症 376例 (19.2%)
3. 前立腺癌 208例 (10.6%)
4. 腎癌 131例 (6.7%)

Fig. 3. 疾患の種類

Table 2. 腎, 尿管, 副腎, 後腹膜疾患

	'84	'85	'86	'87	'88	計
腎						
腎腫瘍	28	22	25	36	31	142
腎結石	21	27	6	7	8	69
腎嚢胞	7	8	8	8	6	37
腎盂腫瘍	5	3	2	5	4	19
水腎症	3	2	3	2	2	12
特発性腎出血	1	0	2	6	3	12
腎性高血圧症	2	5	0	1	0	8
腎不全	2	1	0	1	0	4
腎結核	1	1	1	0	0	3
その他	0	2	0	1	1	4
尿管						
尿管結石	27	24	12	6	10	79
尿管腫瘍	4	9	5	6	5	29
尿管狭窄	0	1	0	2	1	4
下大静脈後尿管	1	0	0	1	0	2
副腎						
副腎腫瘍(悪性)	1	0	0	2	3	6
副腎腫瘍(良性)	1	0	0	2	3	6
後腹膜						
後腹膜腫瘍(悪性)	6	3	0	1	3	13
後腹膜腫瘍(良性)	1	1	0	1	3	6

2) 疾患の種類

疾患の内容については、悪性腫瘍が最も多く、過半数を占め、次いで良性腫瘍が20%、結石が10.8%となっている。最多疾患は膀胱癌であり、入院患者の30%を占め、次いで前立腺肥大症19.2%、前立腺癌10.6%、腎細胞癌6.7%の順となっている (Fig. 3)。年別にみると、前立腺癌、腎細胞癌は増加傾向にあるが、結石疾患は1986年以降急激に減少している (Table 2,

Table 3. 膀胱, 尿道疾患

	'84	'85	'86	'87	'88	計
膀胱						
膀胱腫瘍	122	117	113	108	129	589
膀胱結石	9	13	8	7	10	47
神経因性膀胱	0	7	0	3	5	15
膀胱尿管逆流症	1	2	1	0	1	5
膀胱膿瘍	0	3	0	0	1	4
その他	0	1	0	3	2	6
尿道						
尿道腫瘍	5	6	7	3	2	23
尿道狭窄	0	2	6	5	3	16
尿道カルンケル	3	3	0	2	3	11
その他	0	2	2	1	0	5

Table 4. 前立腺, 陰嚢内容, 陰茎疾患

	'84	'85	'86	'87	'88	計
前立腺						
前立腺肥大症	66	57	79	78	96	376
前立腺癌	30	38	46	45	49	208
前立腺癌疑	20	25	18	28	25	116
陰嚢内容						
睾丸腫瘍	14	14	13	18	14	73
陰嚢水腫	3	2	11	1	4	21
副睾丸炎	4	2	2	5	2	15
精液瘤	0	2	0	0	4	6
停留睾丸	1	1	0	0	0	2
その他	0	2	0	0	0	2
陰茎						
陰茎腫瘍	4	2	2	1	0	9
包茎	2	1	0	0	0	3

Table 5. 手術(腎, 尿管, 副腎, 後腹膜)

	'84	'85	'86	'87	'88	計
腎・尿管						
根治的腎摘除術	18	12	16	18	16	80
尿管切石術	18	16	8	3	2	47
腎尿管全摘除術	7	7	5	7	7	33
腎盂切石術	9	12	3	2	1	27
腎切石術	12	5	5	2	1	25
腎造設術	4	7	1	2	1	15
腎摘除術	3	3	3	3	0	12
PNL, TUL	0	0	0	0	13	13
副腎・後腹膜						
後腹膜リンパ節郭清術	1	2	4	5	4	16
後腹膜腫瘍摘除術	5	3	3	1	2	14
副腎腫瘍摘除術	2	0	2	5	3	12

3, 4).

手術統計

1,962人の入院患者中手術は1,445人, 73.6%のべ1,699件施行されている。年平均では289人に340件の手術が行われたことになる。

1) 腎, 尿管, 副腎, 後腹膜 (Table 5)

これらの臓器における手術で最も多いのは腎細胞癌に対する根治的腎摘除術で, 1年当り16件施行している。切石術は1986年以降急激に減少し, 1988年は僅か

Table 6. 手術(膀胱, 尿道)

	'84	'85	'86	'87	'88	計
膀胱						
TUR-BT	88	79	73	63	84	387
TUR-B	12	16	29	26	27	110
膀胱全摘除術	24	23	15	14	16	92
回腸導管	18	20	15	11	13	77
尿管皮膚瘻	6	2	0	2	3	13
腎瘻	0	1	0	1	0	2
膀胱結石砕石術	8	12	4	2	4	30
膀胱部分切除術	0	5	2	3	2	12
尿道						
内尿道切開術	0	1	3	3	2	9
カルンケル切除術	3	2	0	2	2	9
尿道部分摘除術	0	1	1	0	0	2
尿道全摘除術	0	0	1	0	0	1

Table 7. 手術(前立腺, 陰嚢内容, 陰茎)

	'84	'85	'86	'87	'88	計
前立腺						
TUR-P	50	52	79	82	89	352
被膜下摘除術	12	9	5	3	8	37
全摘除術	5	3	4	5	11	28
陰嚢内容						
除嚢術	7	10	7	16	13	53
高位除嚢術	6	9	10	7	7	39
陰嚢水嚢切除術	2	0	10	2	3	17
精液嚢切除術	0	2	0	0	4	6
義睾丸挿入術	1	1	0	1	0	3
副睾丸摘除術	0	1	0	1	0	2
陰茎						
腫瘍切除術	2	2	1	1	0	6
包皮環状切開術	2	2	0	0	0	4
陰茎部分切除術	1	0	1	0	0	2
プロステーゼ挿入術	0	0	1	0	0	1

4件であった。また1988年より PNL, TUL を開始した。副腎, 後腹膜に対する手術では, 進行性睾丸腫瘍²⁾に対する後腹膜リンパ節郭清が最も多く, 5年間で16例施行した。

2) 膀胱, 尿道 (Table 6)

膀胱に対して行われた手術で最も多いのは, TUR-BT で年平均77例, 次いで膀胱生検, 22例, 膀胱全摘除術18例で, 腫瘍に対する手術がほとんどである。膀胱全摘除術時の尿路変更は原則として回腸導管とし, 進行症例に対しては術前あるいは術後補助化学療法を施行し生存率の向上をめざしている。膀胱全摘除例においては摘除標本にて予後規制因子を検討し³⁾, また最近では癌遺伝子の発現の有無を検索している。尿道に対する手術では内視内尿道切開術, カルンケル切除術が年2~3例程度行われている。

3) 前立腺, 陰嚢内容, 陰茎 (Table 7)

前立腺に対する手術は TUR-P が最も多く年平均70例, 次いで被膜下摘除術が7例と, 1983年以前の6年間で比較すると TUR-P が増加し被膜下摘除術が著しく減少した。前立腺癌に対しては stage B はもち

Table 8. 手術術式別頻度

	件 数	年 平 均
1. TUR-BT	387	77.4
2. TUR-P	352	70.4
3. TUR-B	110	22.0
4. 膀胱全摘除術	92	18.4
5. 根治的腎摘除術	80	16.0
6. 除 辜 術	53	10.6
7. 尿管切石術	47	9.4
8. 高位除辜術	39	7.8
9. 被膜下前立腺摘除術	37	7.4
10. 腎尿管全摘除術	33	6.6

ろん C さらには D においても術前補助療法として内分泌療法あるいは化学療法を施行し積極的に全摘術を行っている⁴⁾。陰嚢内容に対する手術では、前立腺癌が入院患者の第3位の疾患であることから、去勢術が最も多くなっている。

4) 手術術式別頻度

以上主な臓器別に手術内容を示したが、最後に頻度の高い手術術式を上位10位まで順に Table 8 に示す。

結 語

1984年1月から1988年12月までの5年間の大阪府立

成人病センター泌尿器科入院患者について臨床統計を行った。

5年間の入院患者総数は1,962人で、これらの年齢、性、疾患臓器と疾患の種類および手術件数、臓器別の手術頻度と手術内容、手術術式別頻度について報告した。

著者名はこの期間に大阪府立成人病センター泌尿器科に在籍したものである。

本論文の要旨は第120回日本泌尿器科学会関西地方会にて発表した。

文 献

- 1) 古武敏彦, 中村麻瑛男, 中村隆幸, 宇佐美道之, 清原久和, 三木恒治, 吉田光良, 黒田昌男, 木内利明, 細木 茂, 吉岡 進, 松宮清美, 亀井 修, 織田英昭, 幸田憲明: 大阪府立成人病センター泌尿器科における入院, 手術統計 (1978年1月-1983年12月). 泌尿紀要 31: 1221-1225, 1985
- 2) 古武敏彦, 三木恒治: 睪丸腫瘍の治療の現況. 癌と化学療法 15: 195-204, 1988
- 3) 黒田昌男: 膀胱癌の臨床病理学的研究—浸潤性膀胱癌の予後規制因子の検討—. 日泌尿会誌 75: 379-390, 1984
- 4) 宇佐美道之, 古武敏彦: 前立腺全摘除術. 泌尿器外科 1: 305-308, 1988

(1989年6月26日迅速掲載受付)